

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月10日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2012

課題番号：20530570

研究課題名（和文）

異文化間ソーシャルスキル学習の実験的セッションに関する応用社会心理学的研究

研究課題名（英文） Applied Social Psychological Research on Experimental Session of Cross-cultural Social Skills Learning

研究代表者

田中 共子 (TANAKA Tomoko)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授

研究者番号：40227153

研究成果の概要（和文）：異文化滞在者を対象に、異文化圏での対人関係に必要なとなる、社会的技能（ソーシャルスキル）を学習する実験的セッションを行った。介入実験によって、異文化間ソーシャルスキルによる対人関係形成の促進効果を確認した。質的、量的手法を併せた統合研究の手法を用いて、異文化間ソーシャルスキルの内容と実施過程の解明、「異文化間ソーシャルスキルの獲得による適応促進仮説」の検証を進めた。

研究成果の概要（英文）：Experimental session of social skills learning which enhance interpersonal relationship formation in cross-cultural environment for sojourners had been done. Enhancing effect of interpersonal relationship formation by cross-cultural social skills had been confirmed. Using integrated method with qualitative and quantitative survey, elaboration of contents and process of performance of social skills and “mechanism of enhancing cross-cultural adjustment by cross-cultural social skills acquisition” had been investigated.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：異文化間心理学

科研費の分科・細目：心理学・社会心理学

キーワード：異文化間ソーシャルスキル ソーシャルスキル ソーシャルスキル学習 留学生心理教育 異文化適応 異文化間教育 文化学習

1. 研究開始当初の背景

異文化適応理論の進展を図り、国際化時代における異文化滞在者の新たな適応援助策を創出することを狙った、応用社会心理学的研

究として構想された。対人関係は異文化適応の困難ともサポート供給源ともなる両義性を持ち、その促進は異文化適応の支援策となる。そこで異文化滞在者を対象に、異文化圏での

対人関係に必要となる社会的技能（ソーシャルスキル）に焦点をあて、その獲得による適応促進効果をめぐって、理論的研究と応用的研究を展開することとした。

2. 研究の目的

質的、量的手法を併せた統合研究の手法を駆使して、以下を行う。

(1)「異文化間ソーシャルスキルの獲得による適応促進仮説」を検証するため、ソーシャルスキル獲得から異文化適応に至る機序の解明を目指す。(2)「異文化間ソーシャルスキル学習の実験的セッション」として、認知行動的な文化学習を行う心理教育的セッションを構成し、セッションでの学習と続く介入効果を確認する。

3. 研究の方法

(1)異文化間ソーシャルスキル学習の実験的セッション

①AUC-GS学習モデルに基づき、異文化間ソーシャルスキルの学習を行う、心理教育的セッションを実施した。この実験的セッションにおける反応を測定し、フォローアップによって対人関係形成への影響と文化学習としての効果を探った。②異文化間ソーシャルスキルの領域に合わせて文化アシミレーターを作成し、それをを用いた認知的学習を行った後で、その課題に対応した行動を取り上げて、異文化間ソーシャルスキルを学ぶ、個人対象のセッションを実施した。フォローアップによって学習効果の継続と波及的効果を調べた。③留学生を対象とした異文化間ソーシャルスキルの実験的セッションに、学習補助者として参加した日本人学生において、文化学習の発生と学習支援者としての学びを探索した。

(2)在日留学生のソーシャルスキルパフォーマンスに関する質問紙調査

在日留学生が日本の文化特異的とされる対

人行動に対して、どれほどの相違を抱えているか、異文化間ソーシャルスキルの観点から測定し、文化間距離を算出して、異文化適応との関連を調べた。

(3)異文化間対人関係形成過程とソーシャルスキルに関する調査

①在日留学生と友人になっている日本人学生を対象に面接調査を行い、友人関係の形成過程の解明とそこで使われるソーシャルスキルの抽出を試みた。②日本人の友人を持つ在日中国人留学生を対象に面接調査を行い、友人関係の形成過程の解明とソーシャルスキルの抽出を試みた。③日本人学生に質問紙調査を行って、留学生に望む異文化間ソーシャルスキルの実施度合いを尋ねた。実施と非実施の場合の印象形成と対人関係形成過程への影響について分析した。④日本人学生を対象とした質問紙調査を行い、留学生など異質さを抱えた様々な相手を想定し、対人接触の困難感を比較した。困難は個人の特性として説明されるか、相手の特定の属性によるものか、異質性全般に向けられたものかを確認した。

4. 研究成果

(1)実験的セッション

集団対象の実験的セッションに参加した者の反応をみると、日本語が堪能な学生は文化的解読に興味を示し、来日間もない学生では不安の低減が認められた。個人対象のセッションを受けた者はセッション後、遭遇する機会の多い学校場面のスキルを実践していた。そして文化理解の姿勢を強め、スキル学習に興味深いと捉えていた。セッションに参加した日本人学生では、日本文化への気づきが高まり、ソーシャルスキルを解説して文化的仲介者となることが異文化適応の支援になるという気づきを得ていた。スキル学習は、文化行動の習得とその背景の考え方の理解が導かれ、社会的文脈に即した対応がしやすくなる

ことから対人場面に有用といえるが、加えて文化学習の態度自体を学習する効果があり、異文化接触の態度をも変えていくと考えられる。

(2) 在日留学生のソーシャルスキルパフォーマンスに関する質問紙調査

母文化とのスキルの類似性はパフォーマンスにあまり影響せず、容易さや使用しやすさの影響が大きい。日本的スキルはもとより類似していた者が自ずと実行しているというより、実用の観点から学習、選択、実施が起きているものと推察される。

(3) 異文化間対人関係形成過程とソーシャルスキルに関する調査

日本人学生が留学生と友人になる場合、動機付けに対応して機会や場面が分化しており、共行動や誘いかげや連絡の継続などが使われている。留学生が日本人と友人になる場合、相手は学生とは限らず、バイトや習い事や外国人好きの日本人との交流などが含まれる。親密化が進んでいない初期に、日本的な文化行動がより多用される。自宅へ食事と呼ぶなど、母国で使っていた友人作りのソーシャルスキルが日本で機能しないことがあり、誤解や失望、友人作りの困難につながる。異質な人との接触を苦手とする日本人学生は、相手のカテゴリを問わず、留学生、高齢者、他大学の学生など、同質性の低い相手一般とのつきあいに困難を持つ傾向があった。相手と場面によって、異文化間対人関係形成のソーシャルスキルを特定していくことが可能である。ソーシャルスキルを知っていれば誤解が避けられ、初期の対人関係形成には特に有用な接近の道具となることが示唆される。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計9件)

① Tomoko Tanaka 2012 A cross-cultural

psycho-educational program for cross-cultural social skills learning to international students in Japan: Focusing on the AUC-GS learning model. *Japanese Journal of Applied Psychology*, 38, 77-82
② 田中共子・高濱愛 2010 大学生における対人関係形成の困難に関する原因認知—高齢者、子ども、外国人、社会人、学生との関係について—文化共生学研究, 11, 35-44
③ 田中共子・畠中香織・奥西有理 2011 日本人学生が在日留学生の友人に期待する行動: 異文化間ソーシャル・スキルの実践による異文化間対人関係形成への示唆 *多文化関係学*, 8, 35-54
④ Yuri Okunishi and Tomoko Tanaka 2011 Social Skills and Cross-cultural Adaptation of International Students in Japan. *Progress in Asian Social Psychology Series, Volume 8*, 76-92. "Individual, Group and Cultural Progress in Changing Societies"
⑤ 田中共子 2010 異文化適応とソーシャルスキル *日本語教育*, 146, 61-75
⑥ 田中共子 2009 多文化社会に心理学はどう貢献できるか—日本の課題 *文化共生学研究* 8, 21-28
⑦ 中島美奈子・田中共子 2008 異文化交流における日本人学生のソーシャルスキル—在日外国人留学生との交流の要領に関する分析— *留学生教育*, 13, 63-72
⑧ Minako Nakashima and Tomoko Tanaka 2008 Social Skills on the Formation of Personal Relations between International Students in Japan and Japanese. *社会文化科学研究科紀要*, 26, 45-59
⑨ 田中共子 2008 AUC-GS学習モデルに基づく異文化間教育の試み *文化共生学研究*, 6, 125-135

[学会発表] (計16件)

① Hsiao Ching Chen, Koji Mikushi and Tomoko Tanaka 2013.3 Difficulties in Interpersonal Relationships and the attribution of Taiwanese international students. The Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences 2013, Osaka, Japan ② Mira Simic-Yamashita, Michie Noguchi and Tomoko Tanaka 2013.3 Difficulties in Interpersonal Relationships and the attribution of Taiwanese international students. The Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences 2013, Osaka, Japan ③ Koji Mikushi and Tomoko Tanaka 2013.3 Social skills learning in a high context culture: Interpretation and implementation. The Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences 2013, Osaka, Japan ④ 田中共子・奥西有理 2012 日本人大学生による日本的ソーシャルスキルの実施と適応ー在日留学生の対人行動における文化間距離の対比的集団としてー 2012.9 日本人大学生による日本的ソーシャルスキルの実施と適応ー在日留学生の対人行動における文化間距離の対比的集団としてー日本心理学会第 76 回大会 (日本心理学会第 76 回大会発表論文集, 200) (専修大学) ⑤ 田中共子 2012.9 会員企画シンポジウム: 健康心理学の研究が人々の生活に貢献するために何をすべきかー健康心理学の役割を問い直すー異文化適応に果たす健康心理学研究: ソーシャルスキル学習の教育的適用 日本健康心理学会第 25 回大会 (日本健康心理学会第 25 回大会発表論文集, S19-S20) (於東京家政大学板橋キャンパス) ⑥ Tomoko Tanaka 2012 Invited symposium: Health psychology across cultures: Asian perspectives. Culture-specific social

skills for sojourners in cross-cultural interpersonal relations. XXX International Congress of Psychology, Cape Town, South Africa ⑦ Tomoko Tanaka 2012 Japanese social skills learning for international students through a psycho-educational session. XXX International Congress of Psychology, Cape Town, South Africa ⑧ 田中共子 2011 ワークショップ: 教育におけるゲーミングシミュレーションの応用的展開を探る「異文化間ソーシャルスキル学習」日本心理学会第 75 回大会 (日本大学) ⑨ 田中共子 2011 大学生における対人関係形成の困難に関する原因認知ー高齢者・子ども・外国人・社会人・学生との関係についてー 日本心理学会第 75 回大会 (日本大学) ⑩ Koji Mikushi and Tomoko Tanaka 2011 Social skill learning focused on Japanese indirect expressions: An experimental session using teaching aids such as cultural assimilators. The 9th Biennial Conference of Asian Association of Social Psychology, Kunmin, China ⑪ Tomoko Tanaka 2011 Symposium "Synergy of international contact: Past, present, and future." Cross-cultural social skills learning session for supporting cross-cultural interpersonal relationship and adjustments in Japan. A special joint meeting of the Association for Asian Studies and the International Convention of Asia Scholars in celebration of 70years of Asian studies. Honolulu, Hawaii ⑫ Tomoko Tanaka 2010 Response to the psycho-educational session depend on the AUC-GS learning model for cross-cultural adjustment. The 4th Asian Congress of

Health Psychology, Taipei, Taiwan
⑬Tomoko Tanaka 2010 Experimental group session for cross-cultural social skills learning for international students in Japan from the social-clinical psychological perspective. 27th International Congress of Applied Psychology, Melbourne, Australia ⑭田中共子 2009 異文化間ソーシャルスキル学習の長期的効果：在日留学生における一年後のフォローアップ 日本社会心理学会・日本グループダイナミクス学会 ⑮田中共子 2008 シンポジウム「多文化・多民族時代に備えて心理学的な観点からの課題と見直し」 多文化社会に心理学はどう貢献できるか：日本の課題 韓国心理学会 於陸軍士官学校・ソウル ⑯中島美奈子・田中共子 2008 ソーシャルスキル教育を取り入れた文化学習の心理教育的セッション-AUC-GS学習モデルの構成単位ごとにみた参加者の反応ー 日本社会心理学会 594-595

[図書] (計3件)

①田中共子 2011 ソーシャルスキルの視点から見た学校カウンセリング 小林正幸・奥野誠一編著 第6章第2節「ソーシャルスキル教育 2. ソーシャルスキル教育研究の課題」68-77 ナカニシヤ出版 ②田中共子 2010 社会科の心理学／ハンドブック 菊池章夫編「異文化間ソーシャルスキル学習」383-396 川島書店 ③田中共子 2009 社会心理学事典 日本社会心理学会編「異文化適応」丸善株式会社

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 共子 (TANAKA Tomoko)
岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授

研究者番号：40227153

(2) 連携研究者

中島 美奈子 (NAKASHIMA Minako)
九州大学基幹教育院・助教
研究者番号：70647263

(3) 連携研究者

奥西 有理 (OKUNISHI Yuri)
大阪大学工学研究科・講師
研究者番号：50448156

(4) 研究協力者

三串 浩司 (Mikushi Koji)
岡山大学大学院社会文化科学研究科・修士課程2年
研究者番号：-

(5) 研究協力者

シミッチ・山下・ミラ (SIMIC Yamashita Mira)
岡山大学大学院社会文化科学研究科・研究員
研究者番号：-